

## 審査報告書

学籍番号 : ND17001 氏名: 渡邊 幸恵

論文題目 : 子育て世代包括支援センターにおける初回妊婦面談の対話(ダイアログ)の実践モデルの検討

審査日時 : 2024年2月7日 10:30~12:00

審査場所 : 401 セミナー室

審査員 : 主査 岸 恵美子 副査 富岡 由美、伊藤 桂子

### 1. 審査報告

本研究の目的は、母子保健コーディネーターが初回妊婦面談を受ける妊婦をどのように捉え、どのようなコミュニケーション・スキルを用いて、妊婦の対応をしているのかを明らかにし、母子保健コーディネーターが初回妊婦面談で対話(ダイアログ)を活用した面談を実施するための実践モデルを作成することである。

文献検討では、我が国の子育て世代包括支援センターの支援として、妊娠・出産・育児の関係者間の情報共有と適切な支援の提供などの切れ目のない連携の強化が求められる一方で、初回妊婦面談の約9割が妊娠届出・母子健康手帳交付等を実施されており、リスクアセスメントや把握事項、説明事項が多く、初対面で関係構築をして、継続した支援につなげるのが難しいという課題が記述され、対話(ダイアログ)を活用した面談を実施するためのモデルの必要性が明確に示されていた。

研究方法は2段階の調査で構成し、第1段階では、包括支援センターにおける初回妊婦面談で専門研修を受けて経験を積んだ母子保健コーディネーターが活用している会話スキルの特徴と面談の構成を参加観察と半構成的面接による質的記述的研究によって明らかにした。第2段階では、半構造化面接によるインタビュー調査により、母子保健コーディネーターが面談を受ける妊婦をどのように捉え、どのような意図をもって妊婦の対応しているのかを抽出した。そして、第1段階、第2段階の結果を統合し、子育て世代包括支援センターにおける初回妊婦面談の対話(ダイアログ)の実践のモデルを作成した。

本研究では、妊婦面談の目的が分からない状態の妊婦に対して、対話(ダイアログ)の要素を使用して意図的に関わることで、〈言語化と共有〉により会話が促進されると対話(ダイアログ)が生まれ、妊婦が必要な時に相談支援につながるモデルを作成したところに新規性があることが述べられた。

### 2. 質疑応答

上記に対して、第1段階、第2段階の研究結果からモデルを作成することの妥当性と、研究の概念図とモデルの関連性についての記載が不十分であることの指摘があったが、口頭で適切に説明された。

### 3. 審査結果

本研究は、初回妊婦面談における新たな実践のモデルを示したところに独創性と新規性が認められ、今後の子育て支援への活用を検討する価値があると判断した。

以上により、修正すべき箇所はあるが、審査基準を満たしているため審査員全員一致で合格と判断した。

#### 修正事項

- 第1段階、第2段階の対象者の背景を追加して、研究結果からモデルを作成することの妥当性を明記する。
- 研究の概念図とモデルの関連性について、読み取れるように整理する。